

第28回伊勢原市子ども・子育て会議 議事録概要

- 1 日時 令和2年1月21日(火) 午後1時30分から午後3時10分まで
 - 2 場所 伊勢原市役所3階 全員協議会室
 - 3 出席者 宮川委員、田中委員、小山委員、石井委員、萩原委員、安武委員、能條委員、菅野委員、魚見委員、事務局(子ども部 齋藤部長、子育て支援課 天野課長、高木係長、佐藤係長、子ども家庭相談課 岡村課長、子ども育成課 山田課長、稲葉係長、松本、吉川)
 - 4 欠席者 佐伯委員、大田(正)委員、大田(愛)委員、青木委員
 - 5 傍聴人 なし
 - 6 議事概要
 - 1 開会(午後1時30分)
 - 2 委嘱状交付
 - 令和2年1月9日をもって、前期の委員の任期が満了されたことから、新たに13名に対して、本日から令和4年1月20日までの2年間の任期とする委員を委嘱した。
 - 3 議題
 - (1) 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(案)のパブリックコメントの結果について
 - 令和元年12月に実施した第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(以下、「第2期計画」という。)(案)のパブリックコメント実施結果について、資料8により報告。
(事務局)
 - ・ 意見提出は0件だった。
 - ・ 今後、計画の策定手続きを行い、3月中には委員へ製本版の配布ができるように手続きを進めていく。
 - (2) 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(最終案)について
 - 第2期計画(最終案)について、資料9-1、9-2により説明。
(事務局)
 - ・ これまで提示していた第2期計画(案)に加え、計画末尾に「計画の策定経過」、「伊勢原市子ども・子育て会議条例」、「委員名簿」の3点を資料編として掲載する。
- 【議事の議決について】
承認された
- (3) 伊勢原市子ども・子育て支援事業計画の平成30年度実績について
 - 「教育・保育の量の見込みと確保量」、「地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保量」、「個別事業(122事業)の達成度」の平成30年度実績について、資料1~4により報告。

<教育・保育の量の見込みと確保量>

(事務局)

- ・ 計画値と実績値を比較すると、1号で特に差があり、申込者も提供体制も計画より多いという結果となった。その理由として、申込者は、計画策定時に見込んだ数が過少だったことによる差であり、提供体制は、当該年に新制度に移行した幼稚園が計画値より多い定員数を設定されたことによる差である。

<地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保量>

(事務局)

- ・ 利用者支援事業や一時預かり事業等の13事業について、各所管課から各事業の実績を報告した。

<個別事業(122事業)の達成度>

(事務局)

- ・ 平成29年度と大幅な変更は無いが、3つの事業について、実績評価がAからBになった。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 乳児家庭全戸訪問事業について、平成30年度の実施体制が昨年までと比較して増加している理由は何か。

(事務局)

- ・ 増加の理由について捉えられていないため、確認する。

(委員)

- ・ 利用者支援事業について、相談件数が前年度より大きく増えているが、1か所2人とする相談体制で大丈夫なのか。

(事務局)

- ・ 相談件数が大きく増加したのは、市役所の窓口だけで相談を受けるのではなく、健診会場等の保護者が集まる場所への出張を積極的に行い、相談窓口の幅を広げたことが主な要因である。

(委員)

- ・ 外に出かけていった結果、増えたということか。

(事務局)

- ・ そのとおりである。

(委員)

- ・ 養育支援訪問事業について、保護者の同意が得られずに入院につながるという話だが、その後はどう対応しているのか。今の事業の進め方で、虐待の未然防止につながっているのか。

(事務局)

- ・ 相談員が創意工夫し、色々な体制で見守り、子ども家庭相談課だけでなく、他の関係機関の協力を得ながら、大きなチームでもって支援を続けていくようにしている。

また、人数でとらえているが、実際には、一人の方に何日もヘルパーを入

れていたりする。一概に人数だけで内容を図るのは難しく、実際にはかなり対応をしている状況であり、一定の効果はあると判断をしている。

(委員)

- ・ 人数ではなく、どの程度関わったのか、時間や内容があると良いと思う。数値として示すというのは難しいだろうが、そういうものが出てくると中身が見えてくると思う。

(4) 令和2年度利用定員の設定・変更について

○ 令和2年度の利用定員について、資料5～7により説明。

(事務局)

- ・ 令和2年度に認定こども園が2つ開設（幼稚園からの移行）し、平成31年度中に小規模保育施設が2つ廃止（認定こども園への移行1園含む）する。令和2年度の利用定員は資料のとおりである。
- ・ 現在、令和2年度の利用申込を調整しており、利用定員としては満たせる数字になるのだが、定員どおりに受け入れが行えるよう、計画に記載している取組を行っていかねばならないと考えている。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 幼稚園型認定こども園において、利用定員と認可定員で数字が違うのはどういう意味か。

(事務局)

- ・ 幼稚園型認定こども園については、神奈川県認可としては、幼稚園の認可を受け、そこに0・1・2歳の保育を追加している形で認定がおりる。資料上の認可定員は、幼稚園の認可定員を書いていることから、3歳以上の幼稚園の部分については、認可定員をとり、利用定員で0・1・2歳の子どもの分が追加になっているということである。

(委員)

- ・ 今日、課長の方々がいる課の内容ではないが、子どもたちのキッズゾーンというものが、子どもたちの事故等の部分で出ている。駅周辺で建設等々も大分始まってきており、大きなトラックなどの車が何回も通る中で、横断歩道が薄くなっていくところがあるため、子どもたちを守ってあげるような環境づくりをお願いしたい。

【議事の議決について】

承認された

-7 その他

- ・ 1月22日に開催するワーク・ライフ・バランスセミナーの内容を周知。
- ・ 今回が今年度最後の会議であることを報告。

-8 閉会（午後3時10分）